見えるものと　見えないものの間　：あわい

あわいの染色絵師イズオカヨシユキ（現代染色家）

Artist　Statement

　1978 年、8 歳の夏、ひろしま美術館で見た印象派の作品に心を奪われ、画家を志しました。
しかし高校生の時、色覚特性により美術大学への進学を断念。最初の深い挫折でした。その後もカメラマン、イラストレーター、塗装業、電気工事士など、色彩の認識を求められるあらゆる場面で社会との接点を失い、「自分は社会から評価されるに値しない人間なのではないか」という深い自己否定の渦中に沈んでいきました。

　失意の最中、25 歳の時に訪れたニューヨークのメトロポリタン美術館で、「染色」に出会いました。そこに息づく生命力に満ちた色彩に、私は初めて「色が見えた」という鮮烈な感覚を覚えたのです。それは、社会から隔絶されていた私が、世界の美ともう一度つながり直した瞬間でした。
　20 世紀の西洋絵画において、マーク・ロスコらが実践した「ステイニング（染み込み）」という技法があります。キャンバスに薄く溶いた絵の具を染み込ませ、物質としての境界を消し去るそのアプローチは、私が追求する染色の世界と深く繋がる部分が有ります。布に色が染み込み、繊維と色彩が一体化していく現象（染色）には、人間の網膜の限界を刺激し心を揺さぶる本質的な何かがあると信じています。

　以来、染色は私の貴重な表現手段となりました。日本の伝統的な染色技法、東南アジア各地での研鑽を元に、30 年間にわたり布と染料に向き合い、国内外の百貨店や美術館での発表を重ねてきました。

　画業 27 年を迎えた 2022 年、大病を患い自他の境界や時空の曖昧さを体験。そんな療養中に、伝統芸能「能楽」に出会います。現実と虚構、生と死が交差する深遠な世界に触れた時、長年抱えていた色覚特性へのコンプレックスのしこりが静かにほぐれていきました。
見える世界だけがすべてではない。見えない世界にも、人間の息遣いや気配は確かに存在する。私の色覚特性もまた、世界を捉える多様な振幅のひとつに過ぎないのだと、自身の特性を深く許容することができました。
能楽で云う、私は現実世界（鑑賞者）と異界（作品）をつなぐ触媒である「ワキ」であり、生み出される作品こそが異界の存在「シテ」に他なりません。

　染色に魅了されて 30 数年、私の心に染まった当時の衝撃は今も色褪せることはありません。
拙作を通して、見えるものと見えないもの、自分と他者、彼岸と此岸など、隔絶したように感じる二つは全て繋がっており、無窮の可能性を秘めていることを感じていただければ幸甚です。

ホームページ

Bio&Cv

１９７０　広島県広島市生まれ
１９７８　ひろしま美術館で見た印象派に魅了され画家を志す
１９８９　広島県立観音高校卒（色覚異常により美大進学を断念）
１９９５　マレーシア国立博物館にも作品収蔵されている洋画家MD.SALLEH BIN DAWAM氏に師事／マレーシア
１９９７　帰国、初個展／広島市内
２００１　「世界の絵本展」入賞／銀座 松坂屋／’02カナダ・トロント
２００７　企画展「Winds of the east」／SOMArts Cultural Center／サンフランシスコ
２００８　企画展「布に描く世界～染色展～」／はつかいち美術ギャラリー／廿日市市
２０１４　釜山アートビエンナーレ特選受賞／釜山
２０１７　八千代の丘美術館第１６期入館作家選定／八千代の丘美術館／安芸高田市
２０１７　「日韓作家３人展」／K gallery／釜山広域市海雲台
２０２５　～見えるものと見えないものの間～イズオカヨシユキ染色展／あーとあい・きさ／三次市吉舎町

個展
《国内》●阪神百貨店梅田本店／大阪市　●トキハ本店／大分市　●米子高島屋／米子市　●山形屋／鹿児島市　●大丸福岡天神店／福岡市　●広島三越／広島市　●小倉井筒屋／北九州市　●名古屋栄三越／名古屋市

《海外》●SOMArts Cultural Center／サンフランシスコ　●K gallery／釜山広域市海雲台　●マレーシア　　他

《パブリックコレクション》ホテル、病院、市立美術館、ユネスコ、デパート、他多数
また、国内外のアートコレクターの個人蔵多数。